

◆活動報告

第 11 回「全中国選抜日本語スピーチコンテスト」 成功裏に開催！

第11回全中国選抜日本語スピーチコンテストがさる7月19日（火）、東京日経ホールにて成功裏に開催された。

全中国選抜日本語スピーチコンテストは、数ある日本語コンテストの中でも最大規模を誇るスピーチコンテストであり、中国の若者に日本語学習の意欲を高め、日本への理解を深めてもらおうという日本華人教授会議の提案に、日本経済新聞社、中国教育国際交流協会が呼応した形で2006年に第1回スピーチコンテストが行われ、現在では、日本華人教授会議のメインイベントになっている。

中国では現在、約68万人の大学生が日本語を学んでいると言われ、日中の政治・外交関係が厳しい中でも、その数は増えていると言われる。本スピーチコンテストは、まず中国の8会場です選を行い、各会場の優勝者が2名ずつ、計16名、東京に集まり、本選に挑むという形になっている。日本で行われる本選まで勝ち進んだ選手は、1週間ほど日本に滞在し、実際の日本を自分の目で確かめることができる。

第11回の全中国選抜日本語スピーチコンテストに関しては、まず2016年1月18～19日の両日、広州外国語外国貿易大学にて準備委員会が開催され、日本華人教授会議より担当幹事、唐亜明氏が会議に出席した。準備委員会の席上、今回のスピーチのテーマを「日中交流から見る文化の多様性」「環境改善策・私のイチ押し」と決定した。

2016年のスピーチコンテストは、5月14日の東北、華中、西北ブロック一斉スタートを皮切りに、全国の8会場にて順次行われ、6月4日、全ブロックの予選が終了した。第11回のスピーチコンテストには延べ9682名の大学生が参加した。そのうち、16名の選手が予選を勝ち抜き、東京での本戦に臨むことになった。なお、今年度の予選終了は、例年より10日ほ

ど早かった。

本戦では、華人教授会メンバー3名が審査委員を務めた。中国の若者の考え方や視点を知るための貴重な機会と捉え、多くの日本の方々が駆けつけてくれた。

優勝したのは、吉林大学の権誠実（23）さんであった。権さんは共通テーマから「日中交流から見る文化の多様性」を選び、中国を訪れた東北大学の学生たちと東北の郷土料理などを楽しんだ体験を語った。「グローバル化の中で人の行き来が増えるのは、地域文化の多様性を認識するチャンス」と呼びかけた。

また、今年から来場の聴講者に投票していただく「会場特別賞」が設けられた。最も印象に残った「スピーチ」に華東政法大学の孫夢影さん、最も印象に残った「質疑応答」に吉林大学の権成実さんが選ばれた。

スピーチコンテストの翌日、選手代表団の皆さんは中国大使館を表敬訪問し、また、日本前首相の福田康夫さんとそのご子息の福田達夫日本衆議院議員を訪ね、激励の言葉を受けた。

東京での日程終了後、代表団は、古都京都を訪問し、八日間の、全日程を終え帰国した。

第11回全中国選抜日本語スピーチコンテストは、協賛各社、関係者の皆様のご支援、ご協力のもと、成功裏に終了した。2017年の大会に向けて、華人教授会議は、さらなる改善を図って日中両国の関係発展に貢献するよう、決意を新たにするとところである。

（文責：関西大学教授 沈国威）

